

平成 22 年度 愛媛・高知交流会議 議事概要

1 開催日時 平成 22 年 5 月 11 日（火） 13：15～14：25

2 場 所 牧野植物園 牧野富太郎記念館本館 映像ホール

3 概 要

（司会（恩田高知県総務部長））

それでは、ただ今から、平成 22 年度愛媛・高知交流会議を開催いたしたいと思います。開会にあたりまして、今年度開催となっております高知県知事よりご挨拶申し上げます。

（尾崎高知県知事）

それではどうも失礼致します。加戸知事さん、どうもようこそ高知県までお出でをいただきまして、本当にありがとうございます。

愛媛・高知交流会議も今年で 10 回目ということになるわけでございますけれども、この 10 回目の今年、いろいろな形でこの愛媛県と高知県、今連携を深めていく良いチャンスがきているのではないかなと、そのように思っております。お手元にもございます「坂の上の雲」の関係で、非常に愛媛県も観光振興、賑わっておられるところでありまして、また高知県も「龍馬伝」の関係で非常に観光振興、盛り上がっているところです。今後につなげていくためにも、両県でよくよく連携をしていきながら、特に外国などを視野に入れていながらの協調体制などというものについて、一層連携を深めていくべき時機なのかなと、そのように思っております。

また併せまして、国の方で地域主権推進ということで大綱策定に向けましても大きく舵を切っておりまして、口蹄疫の問題等々喫緊に対応すべき課題もあろうかというふうに考えております。この交流会議の機会を十分に活用させていただきながら、両県でともに連携していく課題について議論を深めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

（司会）

それでは意見交換項目につきまして、順次フリートークということで愛媛県の加戸知事との意見交換をお願いいたします。

意見交換の項目の内容にもよりますが、1 項目あたり 5 分程度でお願いします。

【地域主権改革の実現に向けた取り組みについて（国の出先機関改革について）】

（尾崎知事）

5 分で、分かりました。

それでは会議を始めさせていただきたいと思っております。まず第 1 番目に「地域主権改革の

実現に向けた取り組みについて」であります。政府は6月を目途としまして「地域主権戦略大綱」の取りまとめ作業を国の出先機関改革とか、一括交付金の創設でありますとか、また国の義務付け、枠付けの見直しなどをメインテーマとして、地域主権戦略会議を中心に進めているところであります。また、全国知事会の方でも各PTを中心に議論が進んでいるところがございますけれども、特に国の出先機関改革につきましては、先の全国知事会でも中間報告がなされまして、今後、地方に移譲する事務の対象範囲と受け入れ体制の整備などについて、議論が進むものと考えております。

今後、地域主権改革の実現に向けた取組みにつきましては、我々地方の方からも積極的な参画ということをしていかなければならないというふうに思うわけですが、まず本県といたしましては、「地域主権戦略大綱」に盛り込まれる義務付けの見直しとか、基礎的自治体への権限移譲でありますとか、国庫補助金の一括交付金化などについては、これから法制化される予定でありますところの国と地方の協議の場、こちらなどを活用しまして十分に地方と協議を行っていただくということが不可欠であると、そのように考えておるところです。

他方で国の出先機関改革に対する基本認識といたしましては、私どもとしては、やはり単に、国と地方の間での権限の奪い合いというふうにとられてしまうものであってはいけないのであって、やはり地方にとってそれが良くなる、こうこういう形で良くなるのであるから、出先機関の改革をしていくべきなのだという、少し冷静な議論というのにも必要となってくるのではないかとこのように考えさせていただいております。そういうことで、今後とも、この地域主権改革の実現に向けましては地方側として、高知県といたしましても、また高知県と愛媛県で連携もしながら、また全国知事会の場を生かしながら地方としての声を挙げていくことが必要だと考えておるところでございます。愛媛県の方での基本的なお考えというのはいかがでございますでしょうか。

(加戸愛媛県知事)

今回、法制化されます「国と地方の協議の場」、これが大きなポイントになるんだろうなと思っています。従来的に言いますと、地方からいろんな要望を山のように突きつけても冷たい反応が返ってきただけでしたけれども、少しは前進するのかなと。お題目を掲げますけれども、そのお題目どおり今までいったためしが無いという点では、余り期待をしすぎてもいかなのでしょうけど、基本的には大切なことは、国と地方の二重行政の廃止、撤廃ということであって、それがいかなれば地方の主体性を高めることになる。それが主眼だろうと思います。

ただ、私どもとして、愛媛県にとって一つ心配していますのは、直轄河川の問題でありまして、今都道府県間を越えるものについては国がやり、県内で関係するものは地方という方向性があるんですが、愛媛県プロパーの話をしてみますと、相当長期間をかけて河川整備計画で進める事項が、巨額の経費、相当長期間ということになると愛媛県の体力ではとてもできない。そういうものはまさに国がやらしてもらわなきゃ困る分野というのがあるんで、機械的に全部地方という形になると、愛媛県のように悲鳴を上げるケースはあるのかなという心配は一つしております。

それから権限移譲は、どこまで霞ヶ関が手放してくれるかによるんでしょうが、実は権

限は与えられたが、それを実行するのに必要な財源はないということになると、これまたタコ足で負担だけが増えるという点の懸念がありますので、まさに権限移譲に伴って、国はこれだけの部分が不用になったんだから、県の地方が処理する経費というのはこんな形でそれもセットで移譲するということが見えてこないと、権限だけはきたが、あとお金の面倒はみませんというのを一番心配しているわけで、その辺が多分、国と地方の協議の場での大きな論点の中心になるんじゃないかなと思っています。そういった声を地方から強く上げて、協議の場で反映するようにしなければいけないと、私は思っております。

(尾崎知事)

そこで、今後いろんな形で連携課題というのも増えてきますでしょうし、さらに国の方でも一層、分権に向けた議論というのも話は進んでくるだろうと思うわけです。権限移譲についての議論も進んでくるだろうと思いますが、逆にその議論の進展に伴って、地方側としても着実に準備を進めていかなければならないのではないかと。これはかなりですね、テーマごとにいろいろと詰めた議論をしておかないと、余りラフな議論でもいけない。やはり一定スピード感を持ちながらも、事務レベルでしっかり詰めていくということは必要ではないかと思うわけですね。

そういうことで、具体的なご提案ということでございますけれども、ぜひ今後のいわゆる地方分権の、特に国の出先機関の受け皿のあり方、さらには4県での連携促進のあり方、そういうことについてしっかりと検討していく。掘り下げて検討していくために事務レベルのトップ級で、4県で議論を始めることとしてはどうかと思う訳でございますが、例えば、総務部長などをトップとしまして、そういう場を設けて検討を深めてはどうかと思うんでございますが、いかがでしょうか。

(加戸知事)

同感ですね。当面が出先機関の改革、どんな形になるか分かりませんが、過去の傾向から考えると、この機関のこの部分は廃止する。人員がいくら余るから、じゃあ4県で何名ずつ引き取れというような天下りの形での結論が一番心配しておりますので、出先機関の縮小廃止に伴って、受け入れ体制として、4県でこんな形でなら受け入れられるのかという、その辺はまさに事務レベルで十分対応策を詰めて検討を進めなければいけないと思いますので、おっしゃった形で四国の4県知事会も今月末にありますので、4県スクラムを組んで少なくとも四国における出先機関の受け皿の見通し、対応を十分詰めておく必要があると私は思います。

(尾崎知事)

いろいろ広域連合でやる場合、一部事務組合でやる場合、それから協議会という形態を取る場合、それから実情のフレキシブルな協調の場で対応する場合と、いろんなパターンがあると思います。それらについて、場合によっては業務ごとによくよく切り分けていきながら、詰めた議論をしていくという場を設置させていただければと思います。ぜひまた、その四国知事会に向けてちょっと香川、徳島の方にもお話をさせていただきながら、準備を進めさせていただきたいと思います。

(加戸知事)

これは受け皿体制を組んでおかなければ、地方の拒否があるから、じゃあ出先は廃止せざるを得ないという逆手に使われる危険性があると、私は思います。

【成長産業の創出と雇用対策について】

(尾崎知事)

それでは次のテーマの方に移らせていただきたいと思います。まず「成長産業の創出と雇用対策について」ということをごさいますけれども、先ごろ愛媛県さんの方におかれましては「愛媛県経済成長戦略 2010」を策定されて、今後の成長が見込める四つの成長分野を定めて戦略的に産業集積を進めていくということをご発表なされたところをごさいます。その辺りの取組みを中心にしまして、雇用対策も含めてお聞きさせていただければと、そのように思いますが。

(加戸知事)

今日もこの、今拝見した分厚い高知県の産業成長戦略がありますけれども。

(尾崎知事)

これは新しいバージョン 2 ですね。

(加戸知事)

愛媛県の方では、これから 10 年先を見通して、時代の変革の中であれもこれもとやれる時代じゃないので、ちょっと重点、特化をしていこうということで、経済成長戦略というのを定めまして、ポイントを四つに絞りました。

一つが、高知県も同様でしょうけど、いうなれば一次産業、基幹産業ですが、将来を展望した時に食品ビジネスとして、これを生産・加工・流通、もう全ての段階を網羅した新ビジネスへの活路を開いていかなければいけないんじゃないかというのが一つの考え方があります。

それから二つ目が、低炭素ビジネス。環境社会でありますので、特に今の CO2 排出削減の方向の流れの中で何が見込めるのかなということで、愛媛県としては今、実は改造電気自動車というのに積極的に取り組んでいこうということで、ある意味では大きな産業の中に食い込むニッチ産業として何が考えられるか。愛媛県が持っている体力で何が可能なのか。そういった点で、今の低炭素社会を目指す中での活路を見出していきたいというのが 2 点目であります。

3 点目は、高知県も同様でしょうけど、今は健康指向ブームの時代ですので、それも含めまして、保健・衛生・健康面で少子高齢化社会の中で、比較的雇用が多く見込める分野として力を入れていきたい。

4 点目が高知の「龍馬伝」あるいは愛媛県の「坂の上の雲」、この追い風を生かした形で観光ビジネスを展開したい。特に海外からの受け入れ、全国からの受け入れという形でい

ろんな、これは4県連携を一番求められる分野だと思いますけれども、そういった四つの視点で愛媛県の経済成長戦略を定めて活路を見出していこうと思っていますので、今申し上げた分野の多くが4県連携でかなり成果が上げられることではないのかなと思っています。

(尾崎知事)

私どもも去年からですね、産業振興計画ということ策定いたしましたので、今お手元に配っておりますのは、今年度改定した新しいバージョンになるわけですが、とにかく愛媛県と比べましても、本県は非常に産業集積が進んでおりませんでした。とにかく今一定強みのある一次産業というものを基軸にしながら、また観光というものも大切にしながら、関連産業を幅広く育てていくという視点が一つと、もう一つは先ほどおっしゃられた、愛媛県が今取り組んでおられる分野と概ねダブっているんじゃないかと思うんですが、食品でありますとか天然素材でありますとか、環境、それから健康福祉、こっちの四つの分野につきましては、特に企業さんの取組みもいろいろ後押しをしていこうということで、企業研究会方式などを通じてソフト、ハードの支援をしていくと。幸い、恐らく今年度中に40件くらい、新しい事業というのが出てくるだろうというふうに考えているところです。

まさに今、加戸知事さんがおっしゃられましたとおり、食品とか天然素材、環境、健康福祉、こちらの分については、県同士で連携してやっていくことで、話を進められていく分野もあろうかと思っていますので、多分、発射台が愛媛と高知では大分違うところがあるかと思っています。愛媛の方が先に産業集積が進んでおられると思いますが、逆に言いますと我々、産業振興計画という点でいけば、かなり去年からやり始めて相当力を入れてですね、官の方でも、官民協働ということで歩を進めているところでございますので、ぜひ協力できる部分は協力をさせていただければと、そのように思います。

あともう一つは、今年度新エネルギーの関係で我々、新しくビジョンをつくっていこうと思っておるんです。やはりエネルギーの自給率向上というのも食料と並んで、一つの今政策アジェンダになりつつあるのかなと思っておるんですが、小水力、風力、それからバイオチップなど、いろいろあろうかと思いますが、こういう自然エネルギーというのは、恐らく県境にたくさん集中していることなんかもあつたりすると。そういうことからしましても、両県で連携して取組みを進めることで、より大きい仕事ができるということもあろうかと思っていますので、そちらについてもいろいろご指導賜ればなど、そのように思っております。

(加戸知事)

愛媛県で今、取り組んでいる一つがバイオエネルギーとしてのミカンの搾汁残さ。ポンジュースの搾りカスをベースにバイオエタノールを造っていこうということで、今、力を入れて進めていますけど、これは恐らく高知もかなり柑橘関係ありますから、そういったもので、摘果したものの不用品とかいろいろあると思いますので、いずれこういったノウハウは高知にもご利用いただけるのかなと思っています。

ちょっと話を戻しますと、実は電気自動車でも、力を入れていると申し上げましたけれども、電気漁船にも力を入れているんです。というのは、高知のようにカツオ・マグロ漁

のような遠海漁業は別として、宇和海等の近海漁業の場合は、従来のエンジン型漁船の中をガラッと入れ替えまして電気漁船にすると、音が静かということで、一番有望分野じゃないのかなというのがありますので、ご関心を持っていただいて、昨年11月に走行実験をしましたが、非常に順調でしたので興味を持っていただけるのかなと。特に宿毛辺りの漁船にはそういった点、PRをしていただけたらありがたいと思います。

【東アジアをターゲットとした (1) インバウンドの推進について (2) 四国産品の販路開拓、拡大等の取り組みについて】

(尾崎知事)

産業の関係での連携において、恐らく最も有望と言いますか、今後すぐでも一緒に取り組める分野としては、先ほどお話もございましたが、外国人観光客の誘致があるかと思っています。東アジアをターゲットとして外国人観光客誘致の推進をしていくと。こちらについて、ぜひ4県での連携ということも今後進めさせていただきたいと思っております。

恐らく大河ドラマ「龍馬伝」も、来年は外国で放映されるでありましょうし、恐らく「坂の上の雲」なんかもそうなのではないかと。特にアジア、東アジアでは母国語で放映されるということになってくるのではないかとということが予想されておるところでございまして、ある意味、四国で東アジアからお客さんを呼んでくるにあたっては、誘客をしてくるにあたって、今はもうチャンスの中のチャンスなんじゃないのかなと思うわけですね。特に来年だと思っておりますが、ですから今から準備を始めていないといけないということかと思っています。

四国ツーリズム創造機構の方でも、今非常に活発に取り組みを推進されたところでございますが、本県としてより一層、四国ツーリズム創造機構の取組みに、我々高知県としても力を入れていきたいと考えておるところでございまして、この点についてぜひ一緒に連携をさせていただければと思います。

(加戸知事)

日本航空の問題で愛媛県も伊丹、あるいは小牧の便が廃止になり、考えてみると、搭乗率が悪いからというのが主たる理由になったんですけど、結局、観光面でのちょっと力不足が一つの原因になっているのかなという感じがいたしますよね。

そういう意味で四国ツーリズム創造機構として、いずれの空港であれ、どこかに着地をして四国の観光地をめぐって、また別の四国内の空港から帰るというような形、あるいは海外からのインバウンドに力を入れていくこと、今こういったピンチがきたことで、なお加速して力を入れていかなければいけないなというのはヒシヒシと感じているところであります、協力方を、皆さんでスクラムを組んでやっていきたいと。

(尾崎知事)

そうですね。多分、来年は千載一遇のチャンスだと思いますので、ただ千載一遇のチャンスの来年になって取組みを始めてももう遅いので、今年ぐらいから力を入れていくということがぜひとも必要だと思います。

加えまして愛媛県でもいくつかチャーター便、外国とチャーター便のお取組みをされていますよね。我々、高知県も遅まきながら今、東アジアの国とのいろいろ航空誘致について、路線誘致について取組みを始めたところでございますが、恐らく相互に連携して愛媛インの高知アウト、高知インの愛媛アウトとか、いろんな取組みもできるんだろうと思いますので、ぜひ一緒に連携させていただければと思います。

(加戸知事)

今のチャーター便の場合でもそうだと思うんですね。結局、どちらかという県単位で今、外国とのチャーター便をやってみましたよね。これは例えば四国4県がセットで考えると、今おっしゃったように、いろんな組み合わせが可能になるんじゃないかと。つまりインとアウトは場所を変えてもいいと。要するに効率的なフライト機材の利用とマッチングした形での四国インバウンドシステムというのを取り組む必要があるなという感じを持っております。

(尾崎知事)

我々、上海事務所、シンガポール事務所もございますので、今後観光の関係についても、それぞれの事務所の方で取組みを強化していこうと思いますので、そういう場なんかもぜひ一緒にご利用いただきながら、誘客の一層の強化をしていければと、そのように思います。

あと、ご提案いただきました点で、「四国産品の販売販路開拓の取組み」でございます。去年から四国産品常設売場ということで、シティーショップさんですか、そちらで常設売場を設けさせていただいて、私も1回現場に行ったことがありますけど、ある意味、上海なんかでは高級スーパーなんですね。そこで一定ものが売れている姿なんかも見ました。まだとっかかりのとっかかりに過ぎないかと思いますが、非常に効果的に情報発信のできる場所ではあるなというふうに思ったところでございます。こういう取組みを今年も引き続き進めていきたい。むしろ、取組みをより強化していきたいと思いますが、そういう点でも四国4県で連携できればよろしいかなと、そういうふうに思います。

(加戸知事)

この上海での四国アンテナショップと常設売場は四国4県連携が上手くいった一つの事例でありますし、これから東アジアをターゲットとして考えた時に、4県バラバラじゃなくて、全て4県セットで窓口一つで、いろんな形での売り込みをかけていくということが肝要だろうと、私は思っております。そういう意味のキーステーションが、ある意味では高知県の上海事務所、あるいはシンガポール事務所という形になりますので、そこがかなり大きな役割を果たしていただけるかなと思いますし、これからの作戦を考えた時に、一つ考えなきゃいけないのは、4県がバラバラで売り込むんじゃなくて、この商品はこれに特化するとか、若干、的を絞らないと、あれもこれも似たようなものを4県どつといても、結果としての海外の売り込み成果に繋がるかどうかという、無駄な労力を省くことも、ちょっと考えていかなければいけないかなと正直思いますね。

(尾崎知事)

シンガポール、香港、それから上海、韓国という形でどんどん我々も輸出促進の枠組みというのを創りまして、この産業振興計画の中で、そちらの方の取組みを実施しているんですけど、やっぱり地域によって売れる産品は違いますし、所得水準が違うので、売り方も大分違ってくるということもあって、今急速にノウハウを貯めているところかなと思うわけなんですけど、そういうノウハウの蓄積の結果なんかも生かしてやっていきたい。おっしゃるとおり、やっぱりちょっと一定絞り込んだ方が、結果として上手くいったといった答えが多かったりします。

(加戸知事)

結局、中国も今、消費レベル、生活レベルは上がっていているんでしょうけど、日本からの品物が、高級品でもリーズナブルだと思ってもらえるような形、何が合うのかというのは、日本人の感覚で判断してはいけないんで、現地の人たちがどう思うかというニーズの把握が、こちらからの供給とマッチすることを考えていかないと、かなりロスが出るのかなという意味の直接的、効率的に判断する必要というのが出てくると思います。

【高速道路の料金上限制について】

【四国 8 の字ネットワークの早期実現に向けて】

(尾崎知事)

分かりました。引き続き連携を深めさせていただきたいと思います。そこでさっき、航空路線のお話も出ましたけれども、今後、ちょっと交通ネットワークについてお話をさせていただきたいと思います。まずは「高速道路の料金上限制について」ということでございますが、先ほど、上限一般の路線が 2,000 円と瀬戸大橋、本四連絡橋、これが 3,000 円という案が発表され、4 県の議長会、それから 4 県の知事会におきましても、それに対して反対である旨の統一行動をしてきたところでございますけれども、特に今後、国会審議なども行われる中で、こちらについて大いに力を連携して、特にここを連携してですね、今の課題として取り組んでいかないといけないと思いますが、こちらはいかがでございますでしょうか。

(加戸知事)

今度の高速道路の問題は、正直言うと地方サイドの意見聴取とか実情把握なしに一方的にバンと方針が打ち出された。しかも、本土側と四国との料金の差別、その他問題があまりにも大き過ぎる点があるので、正直言うともう少し時間をかけて考えてもらう必要があるんじゃないのかなというのが、私達の気持ちでもあります。ただ訴えていかなければいけませんから、これはある意味で本四料金の話にすると、10 府県市がまさにがっちりと共通対応をしなければ、足並みが乱れると、あそこがいいと言ったじゃないかというような形で切り崩される恐れがあると思います。その中で今一番大きな問題は、国もちょっと弱みがないわけじゃないのは、いうなれば本四架橋に関する出資金の継続の問題と追加出資金を認めるか認めないかということがありますので、この問題は実は 4 県知事会議でも共

同歩調がとれる方向で、結論は今決めなくても共通認識と共通行動をとるということの見合致が必要かなと私は思っております。

(尾崎知事)

出資の問題については、我々高知県といたしましても、これは10府県市の連携で対応していくといくことが基本の基本だと思っていますので、そのところの足並みが乱れないように対応させていただきたいと、そのように思っています。

すみません、高速道路料金の話は引き続き4県で共同で対応していくということになるかと思えますけど、一つ具体的な提案と申しますか、今まで必ずしも4県共同で訴えてきたわけではない事について、一つこれもぜひ強く訴えていったらどうかと思う点があるわけですが、と言いますのは徳島自動車道と高松自動車道の間、ここの部分、藍住インターチェンジと板野インターチェンジですが、この間、非常に近いわけなんですけど、これ実際(高速道路を)下りていくということになると、それぞれ2,000円、2,000円かかってしまうと。他方、徳島自動車道から板野、藍住間を通過して、そのまま明石海峡を通過していく物流ルートというのは非常に太いというふうに聞いておりますので、ぜひこの区間について同一区間であると、高速道路として同一区間内であるというような取扱いをしてもらえることとなれば、事実上それだけでも高速道路料金は2,000円ぐらい安くなっていくということになりはしないかというふうに思っています。これに単にシステムをうまく組み替えるだけでできることではないかと思うのでありまして、それ程財源のかかることでもありません。全体としての料金のあり方について、強く意見を申し述べていくとともに、併せてこの部分について、少しテクニカルではありますが、非常に実効性のある対策としてですね、ぜひ共同歩調で国に訴えていってはどうかと思うんですが、いかがでございますか。

(加戸知事)

それは、去年問題になった中国の高速道路と四国の高速道路を相互通算ですよ。あのシステムと同じ原理で考えればいい話ですよ。ですから特に今まで本土と四国の話だったけど、四国内でのネットワークですから、出て入るといふことの意味では、論理的には通りやすい話じゃないでしょうかね。

同じように地域の実情はそれぞれありましてね。私どもの立場からすると、しまなみ海道だと、そこに住んでいる島の人たちの生活路線だから、料金を上げられちゃ困るとか、各県それぞれの地域事情によって、いろんな問題点というのを抱えているので、そこは先ほど私が共通認識と申し上げたのは、4県がスクラムを組んでいける、例えば本四だけ割高にするとかいうもの以外に、今おっしゃったような接続の問題とか、あるいは島内の生活路線の問題とか、そういうのは4県が問題点を持ち寄って、それを各県の個別の事情ではあるけれども4県共通の認識として訴えていくということ、4県でぜひまとめ上げていければなと思っております。

(尾崎知事)

分かりました。ぜひそういう方向で。今後さらに8の字ネットワークの整備について、

ミッシングリンクの早期解消ということで4県のみならず、全部で9県での対応というのを続けてきたところがございますが、今年年内にいろんな形で、方向性が出てくるだろうというふうに思います。これは本当に気を抜かずに引き続き訴えを進めていく必要があるかと思っております。

今度の5月13日も本県、愛媛県ともに9県知事とのネットワークでミッシングリンク解消ということを訴え続けていくわけですが、いろんな技術的な面も含めて、いろんな提案なんかも含めて、今後はこちらの方も対応強化をしていかなければいけないかなと思っております。東京外環自動車道の11分の1の事業費で建設することが、キロ区間あたりということになりますが、建設できるわけでありまして、非常にある意味、割安な高速道路建設ができる地域でもあるわけでありますから、そういう点も訴えていきながら、このミッシングリンクの四国8の字ネットワークの構築ということ、こちらについて声を強めていくべき時がきてるかなと、そういうふうに思っておりますけれども。

(加戸知事)

この問題、正直私どもも見ていて、政治力学がどう動いているのかというのが、ちょっと判断がつかないところがあるんですが、ただ報道等を見ていますと、東京外環自動車道で高速道路が新規5割なんていう意見が出て、えっと思ったら、よく材料を集めてみると、有料道路としては5割という、馬淵副大臣の話が載ってたんで、そうすると無料道路ならば新規事業はゼロではないのかと期待を持ったり、今日々、報道を見ながら頭をひねっている段階ではあります。いずれにしてもおっしゃったミッシングリンクは、この前は9県ですか。

(尾崎知事)

9県ですね。

(加戸知事)

とにかく、それぞれの立場はおありでしょうけれども、新しい未来へ向けての力強い歩みは止めちゃいけないし、ガッチリそれこそ前進していきたいと思っております。

【地方航空路線の維持・確保について】

(尾崎知事)

地方航空路線の維持・確保の問題も今一つの課題となっておりますが、こちらの方はいかがでございましょうか。

(加戸知事)

そうですね、今回のJAL問題で大変心配はしてるんですけど、高知と松山とちょっと事情が違う点がありますが、正直、松山・伊丹便については全日空がある程度、便数を増やしてくれば対応できる話。それから小牧便も実は松山にとってみれば、中部国際空港へ全日空便がありますので、そちらを増便してもらえれば、数字としては合うと。ただ、松

山・那覇便がなくなると、これは大変観光上問題があるなということ、多分、それぞれ地域によっての影響の度合いは違うんだろーと思いますね。基本的に先ほどの観光ビジネスと絡んでくるんですけど、地方航空路線はネットワークというか、いうなればインとアウトが同時でなくてもプランづくりとか何かがあることで、現実には搭乗率の向上を図れる。結局、狙い目の最後は何かといえば、搭乗率、ロードファクターがキープできるかどうか、今後の航空路線の維持を左右することになるかなという感じを持っていますね。

(尾崎知事)

その関連も全く同感でございますが、その関連でいきますと一つ今後の動向を非常に注視しないとイケないと思っておりますのが、羽田の整備でありますね。国際化に伴って国内線発着枠がどうなっていくのかと。国際化の一層の拡大に伴って国内線発着枠がどうなるかと。やはりこれは国内線発着枠というのを十分に確保する方向でやっぱり対応していただかなければならない。しかも、これについて言えば、新幹線がないとか、そういう地域ですね。こういう地域に対して十分な発着枠を確保してもらおうということが極めて重要ではないのかなというふうに思っているところでございまして、この羽田空港の国際化に伴う国内線発着枠の問題というのも、JAL問題と並んで非常に大きな問題に、今後なってくるだろうと思うわけでございまして、この点もぜひ四国4県で連携しての対応というのをさせていただければと思っておりますけれども。

(加戸知事)

もう一つ、今回のJAL問題は会社更生手続きが入った中での公的資金をはじめとした銀行団の融資とか、こういう大きなファクターがあって、結果的には将来まだ可能性があるものまでも切ってしまったということ。ですから逆にいうと、JALが再生して順調に黒字回復ができた時点で、私は復活あり得べしだと思いますので、その点は日本航空のこれからの経営状況をみなきゃイケませんけれども、またいずれ整理をしてみたが、ここはまだ可能性あるじゃないかという形で復活を期待したいなと思っておりますけどね。

(尾崎知事)

ちょっと心配ですのはJALさんは、小牧の基地機能をそのまま廃止しようとしておられるので、ちょっとそれは余りにも乱暴ではないのかなという感じがいたしております。愛知県の神田知事さんも強くおっしゃっていますし、またその小牧を廃止するにあたって、関連の路線は一蓮托生に全部廃止されるとかいう形に今なっていますので、ここには我々も本当にちょっと、一生懸命こういう誘客努力もしてきたし、一定搭乗率も上がってきている中でいくら何でも乱暴じゃないかなという思いを持っておるんですけどもね。引き続き、ここについては訴えを続けていかないとイケないかなとは思っていますが、いずれにせよ、いかにロードファクターの結果というのは非常に重要でございましょうね。

(加戸知事)

おっしゃるように確かに小牧の場合は、まさに基地機能を廃止した場合の再復活はかなり難しくなるでしょうね。

(尾崎知事)

ちょっとそこのところを、もう一段、考え直すことができないのかということとは言わなければいけないかなと思っています。ちょっとこれ、本県としても上げていきたいと思っていますが。

【JR予土線の活性化について】

(尾崎知事)

この交通機関の関係でいきますと、JR問題、JR四国の問題であります。先日も鉄道のあり方を考える懇談会というのが高松で行われました。今後について、いろいろという形での可能性というのを議論していこうじゃないかという話になったわけですが、本県と愛媛県さんとの関係でいきますと、一つ懸念されますのがJR予土線の取扱いの問題であります。予土線、非常に乗っておられる乗客の密度というものは余り高くないわけですが、他方で実際この年間43万人位の方々が利用されております非常に重要な路線ということかと思えます。

JR四国全体の経営のあり方について、例えば、JR三島基金についてどうあるべきなのかというような、大きなマクロの枠組みでの議論というのも進めていかなければならないと思えますが、併せて個別の路線ごとに、やはり利用拡大に向けてどうすべきなのかということについて、JRだけの問題ではなくて、周りの地方自治体の問題としても考えていくべきではなかろうかと思っております。そういう点、JR予土線について言えば、例えば高知県内であれば、非常に四万十川をずうっとゆっくり、ゆったりと見ていくことのできる路線でもありまして、いわばJR予土線に乗ること自体が一種の観光資源のような側面も持っているような路線ではないのかなというふうに思っているところであります。

沿線自治体でも協議機関ができて、いろいろな形での活用方法の拡大というのを考えておられるわけでございますけれども、こういう地元自治体の取り組みと、それからJRさんの取り組み、それから私ども県としての取り組み、連携をしてぜひJR予土線の利用拡大、特に観光資源としての活用ということにも重きを置きながらの利用拡大ということについて、ちょっと高知県、愛媛県で対応強化させていただけないかなと、そのように思うのですがいかがでございましょう。

(加戸知事)

私も今、実は高速道路料金の問題もさることながら、JR四国のこれからの先行きを非常に気にしております。そういう意味では、予土線は赤字路線でまずやり玉に上がるリスクを非常に抱えているなと思っております。そういった点で愛媛県として何ができるのかなというのは、ちょっとまだ模索をしている段階でありますけれども、これこそ高知、愛媛両県で、JR四国の株主になったような気持ちで、一緒にここは考えていかなきゃいけないことだと思っておりますので、利用促進方策を含めて本当に一番力を合わせて何とか支えていかないと。こういう路線というのは廃止してしまえば終わりになっちゃうので、だからどこまで持ちこたえる体力があるのかということ、JR四国の今後の経営に大き

く左右されるだろうと。まして何か、例えば公的資金がＪＲ四国に投入されるようになれば、予土線は廃止しろという条件で支援するとかいう形にならざるを得ないだろうと、私はみてますので、四国に４月に発足した「鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会」を中心として、いろんな両県の可能な限りの知恵を出していければと思っています。

（尾崎知事）

今度、私、予土線に久々に乗りにいこうと思っていまして、ＪＲの松田社長さんとお話させていただいたら、ＪＲの松田社長さんも確かに観光資源としての売り出し方があるかもしれないとおっしゃって、今度、場合によっては一緒に乗りにいかせていただくんですが。

（京都の）嵐山のトロッコ列車ってありますけども、あれも元々は典型的な赤字ローカル路線だったんだそうでございますね。ただ、あれを観光コースに変えたら、今大盛況になっていて、ああいうような地方路線の生かし方というのもぜひあるんじゃないかと。そうすることで、事実上の生活路線を維持することができるということもあるのではないかとはいまして、ちょっといろんな使い方などについて、今後議論を深めさせていただきたいと思います。

（加戸知事）

おっしゃるとおり、私も昔、黒四ダムでトロッコ列車に何回も乗ったことあるんですけど、それが名物なんですよね。風雨の強い時はびしょ濡れになりますけれども、ああいう野趣豊かな山の中を走るといって、そういった点で何かあそこへ行くと、こんなものがあるよという地域の名物として生かして、単なる生活路線だけじゃないんだという点をどんな形で工夫できるのかと。先ほど申し上げたあらゆる知恵を出してというのは、世界の中でいろいろ頑張っている所もあるでしょうと。それを見習えるんじゃないの。そういうことをＪＲ四国がやってもらう時に、高知・愛媛でどこまでの応援ができるかということは、全体的に考える必要があるなと私は思っております。

（尾崎知事）

ぜひ、沿線市町村さんとＪＲさんとも一体となって、観光面での誘客効果の促進等をにらんだ誘客戦略、こういうものを検討する場など設けさせていただければと思っておるんですが、ぜひ一緒にご参画賜れば力強いわけでありますが、いかがでございますでしょうか。

（加戸知事）

そうですね、分かりました。

（尾崎知事）

ぜひよろしく申し上げます。

【少子対策（結婚支援の広域化）について】

(尾崎知事)

それでは次の課題でございます。少子化対策の関係でございますが、こちら、非常に愛媛県は活発な取り組みをしておられまして、我々も今それに学ばせていただいておりますが、こちらについてはいかがでございますでしょうか。

(加戸知事)

私の個人的な思いがありまして、一昨年(2019年)の11月に「えひめ結婚支援センター」を発足したんですけど、最初にこれは、税金を投入することについて、なかなか理解は得られにくいかんと思っていましたよ。ところが、たまたま四国にある三浦工業の創業者の奥様から100万株を県に寄贈いただきまして、これなら理解を得やすいなと思って、株の配当金で結婚支援センターを立ち上げて、出会いの場をつくろうと。大変好評で、今まで約1万人以上が参加して、現在1,400組のカップルが交際中で、結婚式を挙げられたのが、まだ20組ですけど、現在進行形。それでも2年目からは税金に切り替えて県費を投入していこうと。可能な限りボランティアを活用しながら、要するに出会いの場を作ってあげるということで、インターネットで登録した人で、この場合には50人対50人、20人対20人という形でやっているだけの話なんですけど、非常に成果が上がっていますので、この方式は高知県さんも見習われると成果が上がるんじゃないのかなと思ってまして、そんなに多くの経費をかけるわけじゃなくて、集まってきた時の食費代とか何かは当然実費負担をいただくだけで、お世話をするだけです。特に料理があるわけでもなし、とにかく男女の出会いの場、これはちょっと作るのはかなり年齢層、職業層、いろんな形での組み合わせ、マッチングが難しい面はありますが、そんなに神経質にならなくても、出会いですから駄目なら駄目でいいんで、何回でもチャレンジができますから、そういった点で非常に、今ちょっと鼻高々で自慢をしているところであります。

(尾崎知事)

なるほど。本当に愛媛県のお取り組み、我々も勉強させていただいているところであります。我々も遅まきながらでありますけど、ちょうど出会いのきっかけ交流会とかやってまして、確かに定員100人なんですけど1回目が417人の申し込み、2回目が581人の申し込み。それから終わった後、参加者の反応もぜひ続けてほしいとかですね。そういうことを言っていたりして、ぜひ今後も取組みを進めさせていただきたいと思うんですが、その際、我々としてある意味、今後についてなんですけど、例えばイベントの共同開催とか、あとはボランティアの推進委員さんとか、婚活サポーターとともに交流させていただいて、いろんな形で我々も愛媛県さんの進んだ取組みというのをもっといろんな形で勉強させていただければと思いますので、またどうぞこちらの方もよろしくお願ひしたいと思います。

(加戸知事)

私が考えているのは、今、愛媛と高知の間は国道が7本、高速道路が1本通じていますからね、これだけ県を接している所だったらエリア、エリアでそういった形での愛媛・高

知の合同婚活をやってみると面白いかなと思ったりするんですね。やっぱりお互いに結ばれた時に、ふるさとの距離が離れているよりは、そんなに遠くないと里帰りも簡単にできるというような形で、一つそういうのも企画で考えてみたらなと思っております。

【四国における口蹄疫への対応（危機管理）について】

（尾崎知事）

よろしく申し上げます。

それでは、ちょっとこの後、個別課題二つについてお話をさせていただきたいと思いますが、一つは口蹄疫の問題でございます。宮崎県の方で殺処分6万5,000頭と、牛と豚合わせて6万5,000頭の殺処分ということですが、このすざましいばかりの感染力、これを考えますとこの口蹄疫の問題というのは、各県各県の取組みというよりも非常に県域を越えた形での連携・協調というのが極めて重要となってくるのではないかと、そのように思っています。さらには物流ルート対策なんかにしましても1県だけで取り組むだけではやはりどうしても抜けが出てきたりすると。やっぱり各県がそれぞれ包括的、網羅的な対応をしていくということ。しかも連携・協調しながらやっていくということが極めて重要ではないかと思っているところでございまして、この口蹄疫問題への対応について、例えばその侵入防止対策の徹底とか感染の拡大、あるいは四国島内での発生に備えた形で、第1に緊密な連絡による情報の共有を図っていく体制づくり。それから第2点目に四国4県が一体となった防疫体制の確立をしていく体制づくり。こういうことを四国4県知事会の方で体制を組んでやっていくということをぜひやらせていただきたいと思います。情報の共有、速やかな形での情報共有、そしてまたもう一つが連携した形での防疫体制の確立。こちら情報共有から生まれてくることかと思っておりますが、そういうものをですね、四国4県でぜひやっていきたいと思っております。

（加戸知事）

この4月20日に宮崎県の口蹄疫発生という、即日、愛媛県と九州を結ぶフェリーは伊方町の三崎港、八幡浜港、松山高浜港の三つでしたので、そこへ係官を派遣しまして、入ってくる車両全部、車両消毒をやりました。今日まで続けておりまして、宮崎県でのそれがなくなるまでやらなきゃいけないだろうということで思っておりますが、その時、実は車両の中に申し訳ないんですが、香川ナンバー、高知ナンバーの。

（尾崎知事）

そうですね。

（加戸知事）

牛や豚を積んだ車が時々入ってくるので、これは全部消毒してるんですけど、今の状況の中で、九州から生の牛、豚を入れるのは、それぞれの県で指導、自粛をお願いしたいなと思っております。そういった点で、さっきお話しました四国4県の担当事務レベルでの防疫担当課長会議も早急に持つような形にさせていただいて、愛媛県でのノウハウと、愛媛

県は入ってくる車両は防げますけども、四国の中に発生させないことが一番大切ですから、今、国の方は宮崎県に消毒液、国費で散布という状況で四国までは全然配慮はありませんけども、すぐ目と鼻の先でありますので、県としても今、畜産農家に対して早急に消毒薬の配布を始めようということを取り組みをしているところですけども、いずれにしても四国からは1頭も口蹄疫を出さないという、ちょっと万全の体制を敷いておく必要があると思っております。

(尾崎知事)

ぜひ4県での防疫担当の事務者レベルでの協議とか、そういうのも早急に作らせていただいで対応させていただきたいと思います。本当に、うちの本県の中での防疫態勢、予防、そして万が一にも発生した時の対応というのは、本県の中ではスタンバイしているんですけど、こういう問題というのは、はっきり申し上げて圏域で対応しないと絶対いけない問題だと思いますので。

(加戸知事)

今申し上げたように、九州からのフェリーの車両消毒だけで足りるかとなると、本四3橋を通って。

(尾崎知事)

おっしゃるとおりだと思います。

(加戸知事)

(車両が)入ってくるケースもありますし、これをまたやるのは大変だろうなということがありますので。

(尾崎知事)

もっと言えば九州から中国地方、もっと言えば九州から中国地方、中国地方から四国という流れがもしかしたらあるかもしれません、トライアングルで。だからこういうことを考えていくと、恐らくこの問題は四国で連携していく。この密度が一番濃くないといけないと思うんですが、だけでは足りなくてやはり全国レベルでいろんな形で情報共有、そして体制構築ということをしていくことが非常に重要かと思っておりますので、また全国知事会の方にも提案もしてみたいと思うんですが。昨日、岐阜の知事さんにお会いして、岐阜の知事さんにもそういうお話申し上げたら、ぜひそうしていくべきじゃないかとおっしゃっておられたんですが、全国知事会の方でも、そういう全国的なネットワークづくりといったことについて、ちょっとお話してみたいと思っておりますので、またよろしければ一緒にお願いします。

(加戸知事)

スケールが10年前に比べると1桁以上の大きさですので、あれが宮崎であの状態で封じ込めで成功すればいいんですけども、飛び火があったら拡大は避けられないと思っていま

す。

(尾崎知事)

ちょっとそちらの方、早急なる対応を検討させていただきたいと思います。

【四万十川の清流保全】

(尾崎知事)

テーマとしまして、こちらがご提案させていただいたのは最後ということになりますが「四万十川の清流保全」についてでございます。こちらについては、愛媛県さんの方で、広見川等農業汚水流出対策事業費というのを平成 21 年度から計上していただき、また本年度も計上いただいておりますということでございまして、まずは本当にこの点について感謝を申し上げたいと、そのように思います。いろんな形でチラシの配布していただいて、代掻きの濁水とか外に流出しないようにお取組みを進めていただいていること、本当に感謝申し上げます。なにせ非常に多くの関係者がおられる問題であるだけに、引き続き、継続的な対応というのが非常に必要かなと思うところございまして、若干まだ濁水問題、広見川からの濁水について、もう一段の対策の進化をという声もあるわけございまして、ぜひとも今後とものご協力をお願いしたいと、そのように思います。

(加戸知事)

この件は大変、鬼北エリアがご迷惑をかけていることで、数年前から愛媛大学農学部の指導を仰ぎながら、どうすればいいのか模索をしておりましたけれども、今お話のありました、昨年度の予算で一応対策事業をやりました中で、広見川の大きな支流である三間川の地域が、土壌の質が極めて粒子が細かくて、汚濁すると時間をおいても中に沈殿しないと、そういう性質があるものですから、いろんなやり方で実証試験をやってみたんですが、今のところ土壌の表面が 7～8 割程度見えるような浅水で代掻きを行って、2 日置いた後に田植えを実施するという方法とか、あるいは水止め板を従来の幅の狭い板を複数組み合わせてやっていたのを一枚板に変更するとか、いろんな形でやってみますと濁水がかなり減少することが分かってきましたので、これをなお実証を進めながら、下流への迷惑をかけないように取り組んでいきたいと思っております。土壌の質まで変えろと言われると困りますが、何とか清流四万十を濁す原因を川上でつくらないように頑張らないといけないと思います。

(尾崎知事)

よろしく申し上げます。

それでは、それぞれ意見交換をさせていただいたわけでございますが、意見交換としてはこれでよろしゅうございますでしょうか。

(加戸知事)

はい。大丈夫でございます。

【愛媛県PR事項】

(尾崎知事)

ではどうもありがとうございました。

それでは最後に恒例のそれぞれの県のPRをさせていただきたいというふうに思いますが、どうぞ。

(加戸知事)

一つは、今日ちょっと資料をお配りしてないんですが、私が昔文化庁にいたこともありますけど、オペラに力を入れてまして、今年は「ラ・ボエーム」というオペラを10月に松山で、愛媛県のオペラとして開催いたします。これはペーパーにはありません。ぜひ機会があれば四国でのかなりレベルの高いオペラを見ていただければと思っています。

2点目がパンフレットがございます「正岡子規」であります。坊ちゃん劇場、一昨年「龍馬」を開催させていただいて、高知県の全面的なバックアップを頂戴して大成功いたしました。今年「坂の上の雲」と関連した「正岡子規」のミュージカルで、1年間続けたと思っています。正直、私もミュージカル「正岡子規」と言っても、彼女、恋人はいないし、病人相手のこれでミュージカルになるのかなと思ったら、さすがにジェームス三木先生ですね。正岡子規が咯血してもなぜ死なないんだと、死神が怒って自分の部下を派遣してみたら、どうも五・七・五の17文字の呪文で生きながらえているらしいというので、それじゃ弟子入りをして、そのなぞを探れというところから始まる、愉快的なミュージカルに出来上がってまして、大変面白い、楽しいミュージカルでありますので、また愛媛にお足を運んで高知県民の方もご覧いただければありがたいなと思っています。

【高知県PR事項】

(尾崎知事)

本当に坊ちゃん劇場さんにはミュージカル「龍馬」の時、盛り上げていただきまして、前哨戦的な形で盛り上げていただいて本当にありがたかった。私も見させていただきました。本当に楽しいミュージカルでしたが、この「正岡子規」も楽しみであります。

それでは、高知県の方からは2点、PRをさせていただきたいと思います。一つはチラシをお配りさせていただいていますが、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の特別展が7月31日から8月31日にかけて開催されることとなっております。今、「土佐・龍馬であい博」を、それぞれのパピリオンで開幕いたしておるわけですが、この特別展の方は高知県立歴史民俗資料館の方で、特に従前ですとなかなか公表されない貴重な資料でありますとか、例えば龍馬関係の手紙とか一堂に会する形で、かつてない規模で公表するというようなことも実施いたしますので、ぜひ愛媛の皆さんにもこちらを見に来ていただきたい、そのように思います。

ちなみに、こちら「トサコレ！」というのをお配りさせていただいています。これは元々

1枚1枚がセパレートで配れるようにしてある、カード形式で配れるようにしてあるものなのですけれども、我々高知駅前に情報発信館の「とさてらす」というのがありますが、そちらで観光客の皆さんにお配りしているものなのですが、意外に、例えば、「土佐の屋台を楽しむ」とか、「清水サバを食べよう」とか、それぞれのテーマごとに1枚にまとまっているものでございまして、非常に便利なものであります。観光客の皆さんにも非常に今ご好評いただいているんですが、ぜひこちらなんかも高知においでいただいた折にはご活用いただきたいと思います。

それと、あともう一つであります、今年の秋、11月20日から11月22日の3日間ありますけれども「全国生涯学習フォーラム」こちら「まなびピア高知」という名前をつけてありますが、今度高知県で開催をされることとなります。いろいろな、(チラシの)裏を見ていただきますとテーマ別のフォーラムと真ん中に書いてありますが、環境保全活動についてとか、地域再生と高等教育機関の関係とか、それから地域コミュニティの再構築とか、人材育成とキャリア教育とか、このようなテーマ別の分科会フォーラムを行うとともに、いろいろな地産外商・食育展でありますとか、文化・芸術ライブステージでありますとか、こういうものも実施をするという予定であります。全国各地から生涯学習に関係する多くの関係団体の皆さんが高知県においでいただく予定となっておりますのでございましてけれども、ぜひともこちらの方につきましても、多くの皆さん、愛媛の皆様方にもご観覧をいただければなど、そのように思います。

以上であります。

(司会)

それではそろそろ予定の時間となりました。どうもありがとうございました。閉会にあたりまして愛媛県の加戸知事からご挨拶をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(加戸知事)

今日は誠にありがとうございました。ちょうど10回目となる記念すべき交流会、尾崎知事の意欲的なご発言等もありまして、いろいろな問題、討議できたことに感謝申し上げます。活発な意見交換をベースとして、今後とも両県の間を密接に、未来へ向かっての歩みを続けてまいりたいと思っております。

正直、この会議は私、11年前に知事就任した時に、当時の橋本知事をお願いしてスタートさせていただいた会合でありまして、途中2回、諸般の事情で中断はありましたけれども10回目を迎えてまいりました。私も今回任期最後の年でありますので、来年新しい知事が尾崎知事の相手をさせていただくことと思いますが、引き続き高知と愛媛の絆を大切に、今後とも両県が益々発展しますことを心から祈念いたしまして感謝の言葉、お礼の言葉とさせていただきます。今日は誠にありがとうございました。

(尾崎知事)

どうも長年にわたりまして、本当にお世話になりました。ありがとうございました。